

話題

くまもとニュースあらかると

9年ぶりに実業団女子駅伝チームが誕生へ



▲飛瀬貴子女子駅伝部監督
とびせ・たかこ 南阿蘇村(旧長陽村)出身、1974(昭和49)年6月20日生まれの36歳。93(平成5)年熊本信愛女学院高校卒。同年京セラ入社、96年ソウル国際女子駅伝日本代表2位、97年名古屋国際女子マラソン3位、世界陸上競技選手権女子マラソン4位(団体優勝)、全日本実業団女子駅伝チーム3位などの実績を残す。2000年に京セラを退社し、翌年8月から長陽村役場教育委員会に2年間勤務、03年から久留米工業大学に勤務し女子駅伝部の初代監督を務める。今年1月肥後銀行に入行し人事部に所属、同行の初代女子駅伝部監督に就任した。



左から竹下元久女子駅伝部部長、飛瀬貴子監督、甲斐隆博頭取、下山史一郎取締役常務執行役員人事部長

▲竹下元久
女子駅伝部部長
たけした・もとひさ
1958(昭和33)年7月24日生まれの52歳。77年鹿本高校卒、81年慶応義塾大学を卒業。大学時代は競走部に所属、同年肥後銀行入行、福岡支店副支店長、玉名駅前支店支店長、神水支店支店長、2010年3月から水前寺支店支店長を務めている。



▲甲斐隆博肥後銀行頭取

今年、熊本に9年ぶりに実業団女子駅伝チームが誕生する。肥後銀行(甲斐隆博頭取)は1月7日、本店に隣接する熊本市練兵町の(財)地域流通経済研究所の会議室で、「女子駅伝部」の創部の概要を発表した。

今年の4月1日付で正式に女子駅伝部を発足するというもので監督には前久留米工業大学女子駅伝部監督の飛瀬貴子さんが、部長には竹下元久同行水前寺支店支店長が就任した。飛瀬監督は同行の人事部(研修担当)の所属となる。

女子駅伝部の選手は今春採用予定の大学生2人、地元高校生1人が決まっており、3年以内に10人程度の部員数にする予定。また、コーチやトレーナーなどの人的面、合宿所の建設(当面は既存の寮を使用)、栄養士による食事管理、医療機関との連携による体調管理などサポート体制を確立していくという。

4月以降は県内や実業団のトラックレース、ロードレース、マラソンなどの個人競技に出場を予定し、実業団駅伝西日本大会出場は来年度から目指していく。トレーニング拠点は水前寺陸上競技場を中心に総合運動公園なども候補としてあげている。

県内の実業団女子駅伝チームはけん引役を果たしたニコンコードが1998年に廃部、NEC九州、ララが2002年に活動を停止以来、長らく不在状態に。肥後銀行女子駅伝部の創部は9年ぶりとなる。

同行の甲斐頭取は「中期経営計画の基本テーマ」故郷の再発見の中で、熊本県は九州新幹線の全線開通、来年には熊本市の政令指定都市への移行など期待感と一体感が出始めています。当行としても地域貢献の一つとして女性活躍支援の観点から創部を決断しました。飛瀬監督が思い通りのチームづくりができるように、銀行としてできる限りの支援体制をとっていきます」とコメント。

飛瀬監督は「熊本に実業団の女子駅伝部ができることは大変嬉しく思っています。熊本にはすばらしい指導者の方々も多くおられますので、私も学びながら選手にプロ意識を植え付け、全国、世界に通用するような人材を育成したいと考えています」と抱負を語った。

今春、熊本に9年ぶりに実業団女子駅伝チームが誕生する。肥後銀行(甲斐隆博頭取)は1月7日、本店に隣接する熊本市練兵町の(財)地域流通経済研究所の会議室で、「女子駅伝部」の創部の概要を発表した。

今年の4月1日付で正式に女子駅伝部を発足するというもので監督には前久留米工業大学女子駅伝部監督の飛瀬貴子さんが、部長には竹下元久同行水前寺支店支店長が就任した。飛瀬監督は同行の人事部(研修担当)の所属となる。

女子駅伝部の選手は今春採用予定の大学生2人、地元高校生1人が決まっており、3年以内に10人程度の部員数にする予定。また、コーチやトレーナーなどの人的面、合宿所の建設(当面は既存の寮を使用)、栄養士による食事管理、医療機関との連携による体調管理などサポート体制を確立していくという。

4月以降は県内や実業団のトラックレース、ロードレース、マラソンなどの個人競技に出場を予定し、実業団駅伝西日本大会出場は来年度から目指していく。トレーニング拠点は水前寺陸上競技場を中心に総合運動公園なども候補としてあげている。

県内の実業団女子駅伝チームはけん引役を果たしたニコンコードが1998年に廃部、NEC九州、ララが2002年に活動を停止以来、長らく不在状態に。肥後銀行女子駅伝部の創部は9年ぶりとなる。

同行の甲斐頭取は「中期経営計画の基本テーマ」故郷の再発見の中で、熊本県は九州新幹線の全線開通、来年には熊本市の政令指定都市への移行など期待感と一体感が出始めています。当行としても地域貢献の一つとして女性活躍支援の観点から創部を決断しました。飛瀬監督が思い通りのチームづくりができるように、銀行としてできる限りの支援体制をとっていきます」とコメント。

飛瀬監督は「熊本に実業団の女子駅伝部ができることは大変嬉しく思っています。熊本にはすばらしい指導者の方々も多くおられますので、私も学びながら選手にプロ意識を植え付け、全国、世界に通用するような人材を育成したいと考えています」と抱負を語った。

肥後銀行が4月1日付で女子駅伝部を正式創部
初代監督に熊本出身の飛瀬貴子さん

2月23日から店名を「県民百貨店」に くまもと阪神



▲新たな社名とロゴマークを発表する松本社長ら。マークはくまもと阪神のマークを継承し、躍動感を加え色合いを変更

くまもと阪神(㈱県民百貨店、松本丞治社長)は2月23日から、店名を社名と同じ「県民百貨店」に変更する。2月22日に阪急阪神百貨店との営業支援契約が満了するのを機に変更するもの。当初は2003年からの5年契約だったが3年延長し、店名の使用や人材派遣などの営業支援を受けてきた。しかし昨年2月で人材の派遣が終了しプロパー社員だけで運営しており、今年度決算が2期連続で黒字の見込みとなっているため「独立できると判断(松本社長)し、変更を決めたという。これに伴い、包装紙やショッピングバッグ、職員の制服も変更する。併せて県民百貨店では、12月20日付で全国の百貨店で組織する「タカシマヤ・ハイランドグループ」に加盟した。同グループは鶴屋百貨店や佐世保玉屋など22社・45店が加盟しており、今後経営ノウハウや情報の交換、人材育成の協力、商品・催事交流などを行っていく。

▲「あえて店名に『熊本』と付けず、日本を代表する『県民』の百貨店を目指す」と話す松本社長

▲2月23日から制服も変更する

九州新幹線全線開業の記念番組を共同制作 熊本放送ら3局



▲鳥越俊太郎氏(左)、スザンヌさん、はしのえみさん(右)の3人が会見した

(株)熊本放送(熊本市、浅山弘康社長)、RKB毎日放送(福岡市)、南日本放送(鹿児島市)の3局は九州新幹線全線開業の記念特別番組を共同制作、順次放送する。番組タイトルは、「祝開業 九州新幹線・三都物語」で、熊本、福岡、鹿児島島の経済、歴史、観光スポット、グルメなど、各都市の新たな発見をそれぞれ「ベスト10」方式で紹介する。1時間番組で、1月から3回連続の放送となる。熊本編の「熊本まるわかりベスト10」は、2月6日の午後2時30分から放送する。

12月に福岡市のRKB毎日放送内で開いた制作記者会見には、出演者の福岡県出身のジャーナリストの鳥越俊太郎氏、スザンヌさん、鹿児島島出身のタレントのはしのえみさんが出席。熊本県宣伝部長であるスザンヌさんは、「今までは、各県ともライバル意識が強かったけど、人的交流も含めて九州全体が繋がってこれればいいですね」と話していた。

▲「熊本は隣県だけと知らないことが多かったとはしのさん

▲「まだ知られていない各地の文化や伝統に触れ九州の奥深さを感した」と語る鳥越氏